年末年始の火災予防運動について

12月20日㈫から令和５年１月10日㈫までの22日間において年末・年始火災予防運動が実施されます。

冬を迎えるにあたり、暖房機器などを長期間使用する時季となり死傷者を伴う火災が多発する傾向にあることから、防火意識を高め火災の発生には十分注意し、楽しい年末年始を過ごしましょう。

●**詳細**　芦別消防署保安係☎22-3106

★市長だより★ 64

師走の候、市民皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

流行第８波ともいわれる新型コロナの感染拡大が続く道内情勢にあって、コロナとインフルエンザとの同時流行への懸念もあり、一層注意が必要とされるところです。

感染の可能性は誰にもある状況からも、万一のため、市販の解熱剤と検査キット、５日から7日程度の食料などの生活必需品の備えとともに、コロナとインフルエンザは、のどの痛みや倦怠感など感染時の症状が似ているとされ、異なるのは、急激な発熱や筋肉痛などの症状があればインフル、嗅覚や味覚の障害等があればコロナの疑いがあるともいわれておりますので、それぞれの症状に応じた治療薬や処方が必要です。

いずれにしても、マスクの着用、手洗いや手指消毒、冬場でも室内の換気の徹底、とりわけ、冬場はウイルスの活動がしやすく、室内温度が18度以下にならない程度に換気の工夫や免疫を高めるため十分な休息をとるなど感染対策にご留意くださるようお願いいたします。

先月12日に、木質バイオマスの利活用をめざし、市とあしべつ未来の森協同組合、芦別商工会議所との共催により、「シンポジウム」を市民会館で開催しました。

空知管内の自治体、議会、商工会議所、林業関係企業などから約１００人の皆様に参加をいただいた中で、木質バイオマスに管内に先駆けて取り組んだ本市担当職員３名からの事例発表とともに、林野庁・木材利用課の小島裕章課長様をお迎えし、「木質バイオマスエネルギー活用の可能性について」の講演をいただき、木質バイオマスに関する各地の事例紹介とともに、木質バイオマスエネルギーのメリットとして、エネルギーの地産地消、地域経済活性化や雇用の創出など、多様な価値を生み出すとの説明に加え、世界のエネルギー情勢が激動する中で、バイオマスエネルギーが貴重な国産エネルギーとして、さらなる利用が期待されていることからも、今後、地域連携や官民連携によって、空知において、木質バイオマスエネルギーの活用の取り組みが広がることを期待しております。

また、15日から18日までの４日間上京し、北海道石炭対策連絡会議（代表世話人・北海道知事）のメンバーとして、空知炭鉱市町活性化推進協議会（５市１町）を代表し、石炭産業の存続と産炭地域の活性化、石炭の地下ガス化等エネルギーの地産地消への取り組みへの国の支援等を求め、経済産業副大臣をはじめ、関係国会議員等への要請に加え、北海道市長会による秋季中央要請活動に参画し、道内選出国会議員へ「地方税財源の充実・確保」、「地域医療の確保」、「総合的な子育て支援策」、「観光の振興」、「農林水産業の振興」、「除排雪対策の充実」等について要請を行うとともに、９月の本市での「ドリームベースボール」開催にご協力をいただいた一般財団法人自治総合センター様並びに公益社団法人全国野球振興会（日本プロ野球ＯＢクラブ）様へのお礼訪問、及び本市のまちづくりに対し、昨年に続き多額の寄付を賜ったＺＯＺＯの創業者・前澤友作様（東京）に対する、令和４年度芦別市善行者表彰贈呈のため会社訪問等を行ってまいりました。

明治安田生命保険相互会社旭川支社より、地域貢献事業「地元の元気プロジェクト」の一環で４度目となる多額のご寄附を賜り、感謝状を贈呈させていただきました。

12月定例市議会が８日から16日まで開会が予定されております。燃料費等物価高騰等に伴う各会計の予算補正や、まちづくり推進事業補助金の増額に向けた条例等の改正のほか、議員皆様からの一般質問等を通じて、さらなる市政の進展に努めてまいります。

本年もいよいよ押しつまってまいりましたが、市民皆様には、コロナ対策とともに、インフルエンザや風邪の予防など健康管理にご留意いただき、ご健勝で新年をお迎えください。

（11月22日記）

芦別市長　**荻原　貢**